

ハルピン国際シンポジウム&雪像コンテスト に参加して

東京工業大学 工学院
電気電子系 原子核工学コース

川村 隼 (チームリーダー)

菊池 浩司(チームメンバー)

森田 雄貴(チームメンバー)

雪像コンテストは 1/3 から 1/6 まで、国際シンポジウムは 1/7 に行われており、東京工業大学の学生 3 人、京都大学の学生 1 人の混成チームで参加しました。

1 日目 初日に空港へ到着した時にはすでに深夜 24 時を過ぎており、日をまたいでいました。飛行機を降りて少し歩き、バスで空港のゲートへ向かいます。気温はマイナス 20 度を下回っており、その寒さは皮膚を刺される様な感覚で、この時、非常に過酷な環境でコンテストに挑むのだという事を痛感させられました。空港のゲートでハルピン工程大学のボランティアの方と合流し、大学へ向かいます。ボランティアの Li(リー)さんは、スラングなども多く知っている程、非常に日本語が堪能で、この時今後 5 日間生活していく上での不安が少し和らぎました。

2 日目 初日は他のチーム飛行機の到着を深夜まで待たなければならない関係で、3 時間程の睡眠しかとれない状態で、雪像作りに挑みました。雪像のブロックは基本的に上に登り削っていきます。雪像はとにかく大きく、その高さから、最初は上に登っただけで足がすくんでいました。作業は難航します。雪が思っていたよりも遥かに固かったです。ノミで力いっぱい突いてもほとんど削れませんでした。これはまずい、計画通りに作る事は難しいという事で、その晩にデザインの変更を余儀なくされました。

3 日目 三日目という事もあり、ハルピンでの生活にも慣れてきて、この日の昼食は学生食堂ではなく学生街へ繰り出してみる事にしました。本当に美味しかったため、この後の昼、夜のごはんは全てこのお店で食べる事になります。昼食を済ませたら雪像の作業に戻ります。前日と午前中の作業を見て、通訳の方の好意で生徒会のボランティアの方を数人呼んでくれました。作業人数も増え、デザイン変更もした甲斐あってか、この時にはおのおの完成の道筋が見えていた様に感じます。夜は僕たちの様な海外から雪像を作り

に来た人を集めてパーティーを開いて頂きました。海外の方から気さくに話しかけてくれ、楽しく交流する事が出来ました。

4日目 雪像作成の作業は最後の微調整の段階でした。遠目で見て検討、修正する作業を繰り返します。ハルピン工程大学の好意で、午後からは周辺の観光やコンサートなどを企画して頂いていたため、午前でなんとか雪像を完成させました。バスで中央大街へ向かいます。目的地に着くまではバスで歌を歌おうという事になりました。様々な国の伝統的な歌を聴く事が出来、雪像作りの地味な作業とは打って変わって、この時歌を通して国際交流をしているのだと強く感じました。最後に中国の伝統楽器である二胡を用いたコンサートに招待されました。ここでもハルピン工程大学の好意で真ん中のいい席を用意して頂き、中国の伝統音楽を満喫する事が出来ました。

5日目 最終日は国際シンポジウムに参加し、研究発表をしました。他国の方の研究内容もさる事ながら、事前に作って来たとはいえ、その英語力の高さに驚かされました。研究内容で面白かったのはハルビン工程大学の発表で Elman ニューラルネットワークを用いて、原子炉を運転する研究です。運転するとなるとリアルタイム処理が必要となりますが、膨大な計算を先行研究に比べて高速で行っており、興味深かったです。

ハルピン工程大学はテスト期間中であり、忙しい中で5日間を通して一日中付き添って頂いた通訳のボランティアの方や雪像作成を手伝って頂いた生徒会のボランティアの方の好意に本当に感謝しています。

そして、この5日間一緒にいて特に、ボランティアの方はマイナーなスラングを使いこなす程、日本語が本当に流暢だという事に尊敬の念を抱いたと同時に、これ程までに流暢な外国語を習得するためのヒントを得ました。ボランティアの方で日本語が流暢な方は多く、聞いてみると彼らはたった2、3年で習得したとの事でした。彼らに共通していたのは、みな日本のアニメやドラマが本当に好きだという事です。アニメ、ドラマの話をするといくらでも話せました。つまり、言語を習得するために必要な事は、その国の文化を理解し、好きな所を見つける事です。彼らと実際に話して、本当にそう感じます。日本が好きで、日本語が流暢な彼らを見て、帰国した今、「外国語を勉強しなくてはならない」という強迫観念ではなく「彼らの様に外国語の勉強したい」と強く思います。非常に得る事の多い5日間でした。

ハルビン雪像コンテストに参加して

京都大学工学部

物理工学科原子核工学コース 4年

近岡 旭

私はハルビン雪像コンテストに東京工業大学の修士1年の3人と一緒に参加しました。雪像コンテストは1月3日から1月7日まで行われました。

1日目 ハルビン太平国際空港に到着したのは深夜1時で、他のチームの便が遅れたのもあり学生寮についたのは3時を過ぎてしまいました。ボランティアの方々が日本語を上手に話せていて驚きました。

2日目 朝は寝不足のため体が重く、大変でした。大学を移動するとハルビン工程大学の大きさに驚きました。京大吉田キャンパスの2倍ほどの大きさに学生寮、教室、グラウンド、商店街が集まっているため大学構内で生活が完結する点に魅力を感じました。特に学生寮に売店があり夜10時まで空いていることもありとても便利な学校だと思いました。道具を調達してから雪像を掘り始めました。3.5×3.5×3メートルのとても大きな雪のブロックに驚きました。今回はとなりのトトロを作成しました。雪像コンテストに初めて参加することもあり、なかなか作業が進みませんでした。午前中の作業が終わってからは、食堂でご飯を食べた後に再び雪像に取り掛かりました。途中でボランティアの方々が手伝ってくださり大変作業が進みました。夜はハルビン雪まつりに参加しました。まず、雪まつりの規模の大きさに驚きました。とても広い会場に、たくさんの大きな雪像が美しくライトアップされており素晴らしかったです。寮に着いてからは、このままのペースでは終わらないとわかったため4人で話し合いをして、デザインを少し変更しました。

3日目 午前と午後で雪像にとりかかりました。作業が慣れて来たことや、この日もボランティアの方々の手伝いがあったため、大まかな形を作ることができました。夜は香港から来た大学生による歓迎パーティーでした。中国のテレビ番組のパロディや音楽に合わせて踊るイベントなどがありました。中国、台湾、タイ、ロシアなどの人たちと国際交流ができてとても楽しかったです。

4日目 午前中で雪像をほぼ完成させ、午後はハルビン市内の観光をしました。聖ソフィア大聖堂と中央大街に行きました。聖ソフィア大聖堂はロシア聖教の聖堂であり、昔ロシアがこの地域を占領していたことが感じられました。中央大街はアジアで最も大きい石畳の目抜き通りでありヨーロッパ風の建築がたくさんありました。通りの最後には松花江の川辺に防洪記念塔がありました。これは1957年のハルビンの洪水を記念するものです。松花江と

いう川は全て2メートルの厚い氷に覆われており壮大な景色でした。夜はハルビン交響楽団の音楽を聴きました。本格的なコンサートホールが大学内にあり驚きました。中国の伝統的な音楽を楽しむことができました。

5日目 クリーンエネルギーのセミナーに参加しました。主に原子力発電に関係する発表がありました。低レベル放射性廃棄物処理の方法として使われているモルタルに関する発表が面白かったです。また、東京工業大学の森田さんの分光に関する研究も僕が今行なっている研究に関連していたので興味深かったです。

このハルビン雪まつりに参加して、私はもっと英語の勉強が必要であると強く感じました。中国人のボランティアの方々は英語のみならず日本語まで流暢に話す姿を見て、驚き感心しました。世界の中で中国人に負けじと存在感を出すためには、英語力が必須なので英語の勉強により一層励もうと思います。また、中国では人口が多いため競争が激しく、勉強を日本人とは比較にならないほどの量をこなさなければ良い仕事に就くことが難しいそうです。なので私も大学での勉強や研究により熱心に取り組みます。

また、中国には日本のことがとても好きな人と嫌いな人の二極化しているそうです。日本に留学したり、日本のアニメが好きだったりする人たちは日本のことをよく知ってくれているので、日本に対して好感を持ってくれています。一方で日本の歴史的な面しか知らない人たちはそうではないそうです。このような国際交流の場を通じて、中国人に日本のことをもっと知ってもらい、私たちも中国の文化や考え方を学び人の交流からもっと日中関係が良好になれば良いと思いました。



雪像タイトル；「となりのトトロ」

(左から現地ボランティアのリーさん、東京工業大学の川村、京都大学の近岡さん、東京工業大学の菊池さん、東京工業大学の森田さん)